

“熊本知”のビジネス化を後押し

事業化支援で大学研究者4人に「肥銀ギャップ資金」



池永和敏・崇城大工学部教授に目録を手渡す笠原慶久頭取。贈呈式は新型コロナ対策で関係者のみが出席して開かれた



肥後銀行



▲MRI（核磁気共鳴画像法）を用いた効果的な認知症診断技術の開発コンセプトを説明する米田哲也熊大大学院准教授



▲「持続可能な熊本に向け新技術による新産業の創出を応援します」と挨拶する笠原頭取



▲贈呈式の後写真に納まる研究者。(写真左から)池永和敏・崇城大教授、谷時雄・熊大大学院教授、笠原頭取、中島雄太・熊大大学院准教授、米田哲也・同准教授

肥後銀行(熊本市中央区練兵町、笠原慶久頭取)は11月24日、3月に創設した県内大学などの研究シーズ事業化に向け研究者に資金を寄付する「肥銀ギャップ資金制度」の第1回寄付を大学の研究者4人に実施した。

肥銀ギャップ資金制度は、県内の大学、高専などを対象に、研究・開発段階の新技術やノウハウの事業化に向け、必要となる実証や試作などのための資金需要(ギャップ)を埋める制度。大学などに眠っている技術を掘り起こし、熊本発の新ビジネス創生につなげ持続可能な地域づくりを後押しする。寄付枠は3年間で5千万円、1研究室当たり500万円以内。

第1回寄付受贈者は、池永和敏・崇城大学工学部教授(マイクロ波加熱技術を用いた廃棄GFRP(ガラス繊維強化プラスチック)のリサイクル技術開発)、谷時雄・熊本大学大学院先端科学研究部教授(世界初の分裂酵母ジャボニカス*Kumadai*を用いた米焼酎の製造)、中島雄太・熊本大学大学院先端科学研究部准教授(マイクロフィルタを用いた血液診断方式による、手軽に受診できるがん診断デバイスの開発)、米田哲也・熊本大学大学院生命科学研究所准教授(健康長寿社会実現を目指すMRIを用いた認知症発症間診断技術の実装)。同行本店で研究者4人が出席して贈呈式があり、審査員講評の紹介、4人のプレゼン発表の後、笠原慶久頭取が寄付目録を手渡した。式はコロナ対策で関係者のみが参加して開いた。(企画開発部・香月光)